

SAMPLE

特集レポート No. 024

コマツのIoT戦略

Strictly Confidential

 Info Mart Corporation

2017年 6月28日

はじめに

- “IoT” (Internet of Things) はモノのインターネットと言われ、各社の積極的な動きにより急速に拡大しているコンセプトである。今や家電や工場の生産設備などもインターネットにつながり、新しい産業革命として世界中で注目を浴びている
- 建機トップメーカーである小松製作所はIoTが世間に広まり始める20年弱も前からIoTに取り組み、先進的な動きをとってきた。建機にセンサーを組み込み、世界中の建機の稼働状況をつぶさに把握できるようにしたのだ。それにより建機業界の潮流が大きく変わる事となった
- 本レポートでは、IoTの先駆者である小松製作所の取組状況を捉えることで、IoTを戦略的に活用した事例を示し、小松製作所の成長背景に迫る

本資料の流れ

I. コマツのIoT戦略



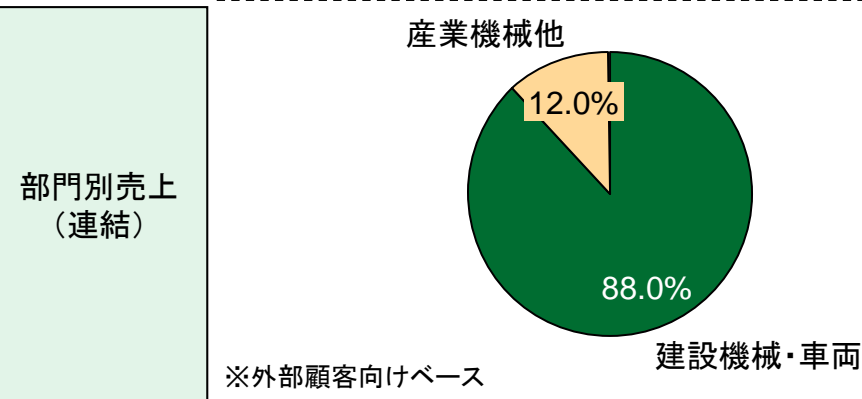
1. 小松製作所の概要と“KOMTRAX”
2. IoTに関する現在の取組み

小松製作所の企業概要

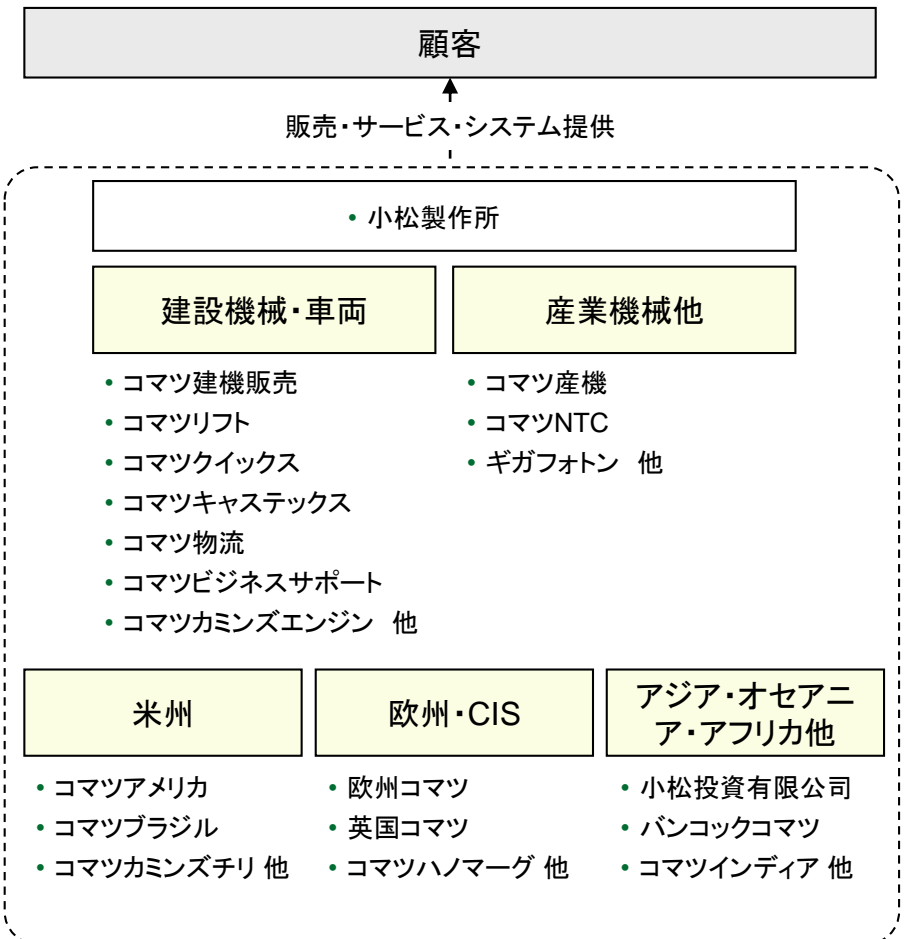
- 小松製作所は、従業員を50,000人弱(連結)抱える建機・鉱山機械メーカーのグローバルプレイヤー

企業概要

会社名	株式会社 小松製作所(コマツ)
創立	1921年(大正10年)5月13日
所在地	東京都港区赤坂二丁目3番6号(コマツビル)
代表者	代表取締役社長 兼 CEO 大橋 徹二
従業員数	[連結]47,017名(2016年3月末現在)
事業概要	建設・鉱山機械、ユーティリティ(小型機械)、林業機械、産業機械などの事業を展開
グループ会社	コマツを含む180社(連結対象)で構成

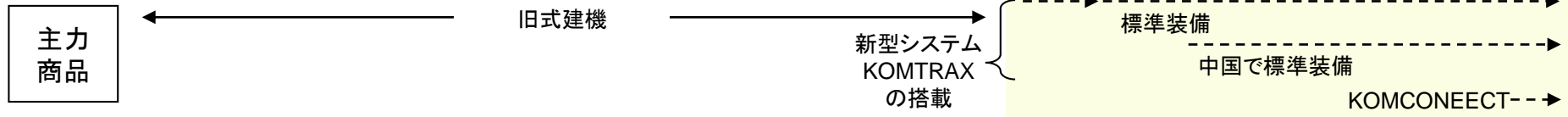
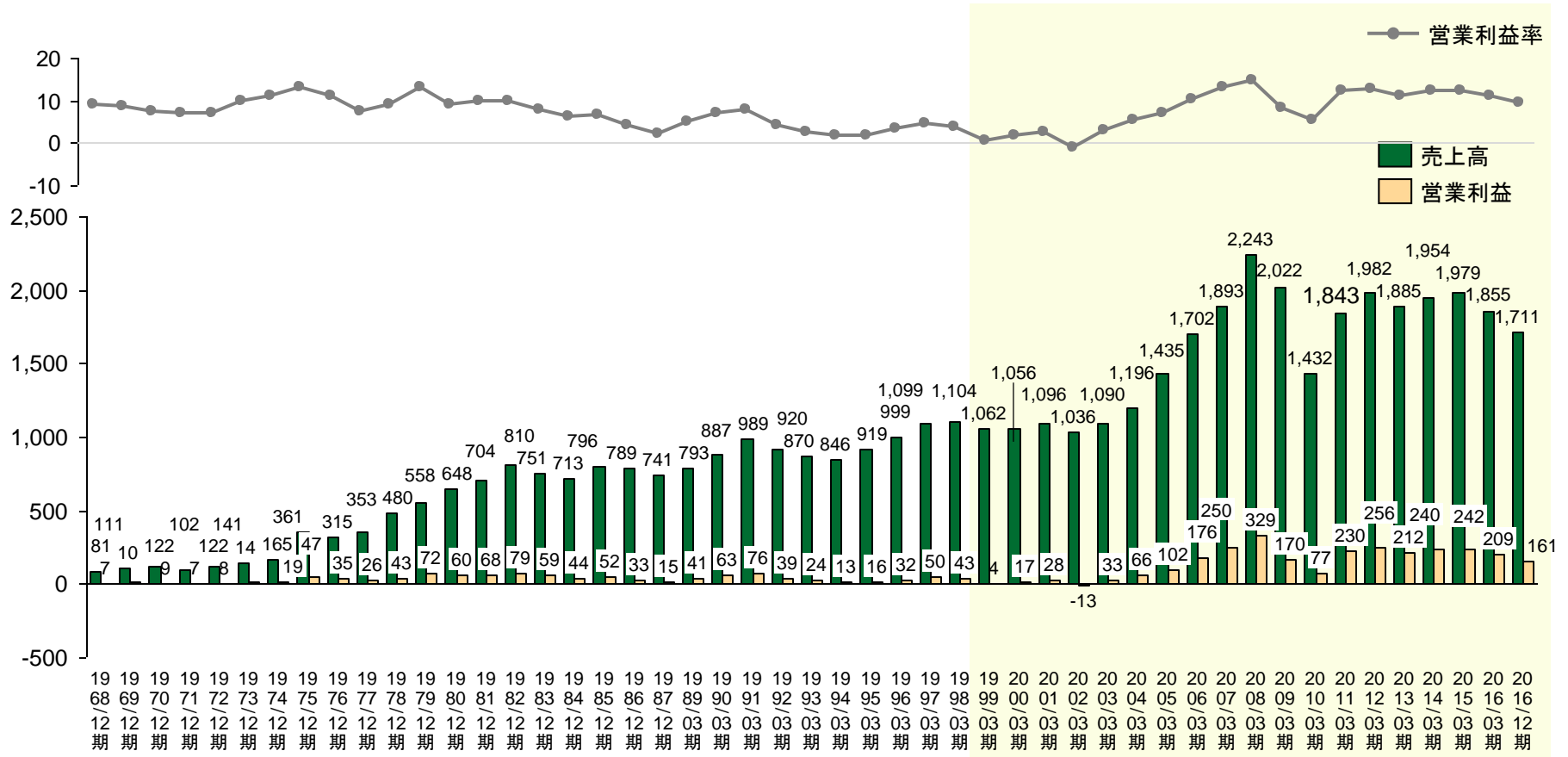


コマツグループの全体像



小松製作所の業績の推移

- 2000年代中盤より、急激に売上高が増加した
 - 画期的なシステムである「KOMTRAX」を展開



出所: 有価証券報告書、小松製作所Webページ

時代の変遷と共に進化してきたコマツの戦略

- 事業環境の悪化に対抗して新型建機システム「KOMTRAX」の展開を強化し、奏功

年代	時代背景	事業環境	コマツが主に行ったこと	業績	主力商品
■ 1920~40	■ 創業	→	■ 農業用機械から、 軍用機器への事業展開	→	農機・軍機
■ 1940~60	■ 日本戦敗、政府の市場保護、高度経済成長	→	■ 重機から 建設機械への事業展開 、急成長	→	↓ 建機
■ 1960~70	■ 建設機械の市場開放 ■ 世界最大手が日本参入	→	■ 「マルA対策」、品質向上が実現した上、コストダウン ■ 多角化展開： エレクトロニクス業界参入	→	
■ 1970~80	■ 国内市場が成熟	→	■ 輸出市場開拓、「マルB対策」： 品質強化、コスト削減 - キャタピラー社の勢力が弱い地域に海外展開	→	
■ 1980~90	■ 国内市場の需要が落ち込み価格競争が激化 ■ 円高、貿易摩擦の拡大	→	■ コスト削減 、販売戦術を実施 ■ 米国、英国に生産拠点を設立、 国際戦略へ展開 - 買収、合併、ライセンス契約・・・	→	
■ 1990~2000	■ バブル経済崩壊 ■ アジア金融危機	→	■ 「3G戦略」、事業の統廃合、製造拠点の海外シフト ■ 鉱山機械事業強化、M&A	→	↓ 鉱機
■ 2001~	■ 事業環境悪化	→	■ 標準化の実行、 SKU削減、コストダウン ■ 不採算事業の統廃合、リストラ ■ 「ダントツ」シリーズの 開発強化 ■ 中古機械の新興市場へ転売強化、金融事業参入	→	新型システム KOMTRAX の展開
■ 2006~	■ 事業環境悪化	→	■ コマツウェイ を明文化、 意思統一の強化	→	

SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

